



木が燃えるときに出るけむりには、何がふくまれているの

木を燃やして出るけむり

木を燃やすときに出るけむりは、木が完全に燃えていないときに出ます。

けむりには、炭素や、灰、水じょう気などの、ひじょうに細かいつづがふくまれています。油分の多い木が燃えると、黒いすすを出すのは、完全に燃えていない炭素がけむりに多くふくまれているからです。

木の灰の中には、カリウムが多く、灰となって残ったものは木灰といって肥料になります。

けむりが目にしみるのは

たき火をしていてけむりが目に入り、痛くなってなみだが出る場合があります。

これは、木を燃やすときに出るけむりの中に、すすや酸やアルコール、アルデヒド、フェノールとよばれる化学物質などもふくまれているからです。

とくに、ホルムアルデヒド、フェノールなどが目をしげきして、痛く感じさせるのです。これらの化学物質は、どくとくになにおいがあり、有毒な物質で、殺菌作用ももっています。（監修 青木国夫）

